

令和7年市町村広報コンクール審査票(映像)

映像作1席「わたしのまんなか」渋川市

審査評価

良かった点

■全体について

・映像のクオリティー、役者さんの演技も素晴らしく、映画を見ている感覚になった。プロの仕事ですね。
・シネマスコープの映像とストーリーがマッチしている。
・タイトルを含め「日本のまんなか」へ上手くまとめている。
・ドラマ仕立てのストーリーに沿って、市内の観光スポットや美しい風景が映し出されていて、10分間惹きつけられながら見た。フォーカスの使い方などによるものと思うが、映像に詩情を感じる場所が多くあった。スチールを入れたところも良かった。
・冒頭から、陰影と奥行きある映像、そしてメリハリある映像編集に、まるで映画を見ているような没入感を感じた。基調として、何か引っ掛かりを感じさせる主人公の表情と言葉、そこへ情感たっぷりの心象風景がインサートされることにより、自治体のプロモーション映像であることをすっかり忘れてしまう。この映像作品の最後、整理しきれない心の「ざわざわ」感に、あえて決着を付けようとせず、シャッター音をきっかけに「東京から90分・・・」というラストコメントで強引にまとめる手法は、得も言われぬ読後感として、この映像作品の不思議な魅力につながっていると考える。

■内容について

・こけしを中心に各地を広く取り上げている。
・プロのカメラマンとして子供を生まない決断をするまでして活躍している主人公がスランプになり、故郷に帰ってきて自分を見つめなおすストーリーが建前としてあり、その背景に渋川市の工芸品のPRがあるという建付けは素晴らしいです。父親と娘の確執もしっかりと描かれており、ストーリーとしての面白さもレベルの高さを感じました。カメラが好きだった頃の自分を思い出し、気持ちの変化を渋川市各地を歩くことで表現していることも良い演出。

映像2席「故郷の母を邪険にしたことありませんか？」桐生市

審査評価

良かった点

■全体について

・テロップが入り分かりやすかった。
・難易度の高いドラマ仕立ての動画にチャレンジしていてよい。
・ターゲット層に合わせ縦型動画を採用した点がよい。
・出演者の演技力が高い。
・故郷から離れて暮らす人であれば、ほとんどの人が同じ経験をしているであろうエピソードをストーリーの中核に据えたことで、論理構成がしっかりし、予見可能であるがゆえに、視聴者が安心してストーリーを楽しむ「余裕」を生み出していると思った。子を思う親の気持ち、故郷を離れて暮らす子の気持ち、それぞれを丁寧に映像化・言語化している。シークエンスそれぞれが、視聴者の納得感と、視聴者それぞれの記憶を掘り起こし、回想する余白につながっており、制作者の技術の高さを感じた。ふるさと桐生に帰った子が目にする、ジャージを着た母親の演出は、制作者の観察眼の鋭さと共に、母親が常に子を思いながら暮らしているという日常生活を瞬時に想起させるという、ぬかりない演出となっている。桐生ならではの風景の組み合わせと、見終わった後のさわやかな読後感が印象的な作品で良かった。

■内容について

・桐生祭りの映像に迫力があつた。
・若い女の子にスポットを当てたストーリーで、桐生まつりを紹介していて面白かった。ストーリーがあると先まで見てみたくなる。沢山の食材の宅配や子どものジャージなどの「あるある」や、「そーなん」という土地言葉を組み込むなどのフックもあってよかったと思う。スマホ画面にあわせた作り方も意欲的に感じた

映像3席「【高崎さんぽ部】第4歩 満足度100%！？牛伏ドリームセンターの魅力を徹底紹介！」高崎市

審 査 評 価

良
か
っ
た
点

- 全体について
 - ・一つの箇所を掘り下げて、紹介しているため、その施設がどんな場所でどんな魅力があるのかが分かりやすかった。テロップもいろいろな色を使いつつ、また感情も乗せてあるので楽しかった。
 - ・好感度の高そうな職員お二人による視聴者視線でのレポートは、だれもが素直に受け入れられる内容だと思った。牛伏ドリームセンターの館内の様子、お料理など、センターの特徴が良く分かる内容でした。食レポについても、ごく自然な言葉遣いと表現で、美味しさが良く伝わる内容となっていると思いました。
- 内容について
 - ・地域の施設の情報を等身大で伝えている。
 - ・出演されている二人の不慣れな感じが伝わってきて、嘘のないことが良く分った。
 - ・2人の職員が頑張っって紹介する姿が好感を持てる。
 - ・職員による食レポが思った以上に分かり易くてよい。
 - ・子どもインタビューは楽しい雰囲気が伝わってよい。
 - ・美しい映像で、各温泉施設の魅力をアピールしていたと思う。

○映像3席「伊勢崎市プロモーション動画」伊勢崎市

審 査 評 価

良
か
っ
た
点

- 全体について
 - ・伊勢崎市といえば「LaccoTower」というイメージがつかまりました。彼らの素晴らしい音楽でノリノリになった。
 - ・映像の撮り方、見せ方に工夫が見られる。
 - ・4:3アスペクト比の映像が懐かしさを象徴していてよい。
 - ・LACCO TOWERさんの楽曲「綾」を縦糸に、伊勢崎ならではの魅力ある風景・映像を横糸として、味わい深い作品を紡ぎだしている。伊勢崎の魅力がぎゅっと凝縮された作品としてみる事が出来た。あわせて、「綾」の歌詞を理解し、作品を再度見直すことにより、人々への応援歌として心に響いてくる。伊勢崎市がこの楽曲を選んだことは、人の「弱さ」を認識の根本に据え、ともに手を携えることで、個々の市民に正面から向き合い大切に・大事にしていきたい、という決意を宣言したとも受け取りたいと思った。新しい時代の幕開けを告げる伊勢崎市の「公認テーマソング」として、感動した。
- 内容について
 - ・市内の観光スポットがインサートされ、売りとなる場所が良くわかりました。
 - ・終盤は、Lacco Towerの映像から文化ホールへ上手くまとめている。
 - ・地元のバンドが演奏するテーマソングにのせて市内の名所などが紹介され、魅力のアピールになったと思う。曲に合わせて映像が切り替える工夫も行われていた。